

「さらに建物配置を『くの字型』にして、中医学の『気』が溜まるような設計をしていただきました。気が滞留することで、その場所にいると元気になるような仕掛けになっています」

「エコテルの認証を取得」

エコロジーという概念で石黒氏と共鳴したことが、エコロジーホテルの建設や2002年の開業後の円滑な運営に結び付いたといっても過言ではない。

運営に当たっては、「計画・設計段階からエコテルの認証取得をめざしました。当時、認証機関は米国の1機関のみです。四万十まで来ていただき、エコなホテルの体制が構築できているかについて、ハード・ソフト両面から審査していただきました。開業翌年の2003年3月に認証を取得しています」。国内2番目だが、リゾート型ホテルとしては初のエコテルの認証となる。

一方、指定管理者として運営することになった四万十いやしの里では、「行政と民間の考え方の違いを実感した」面はあったものの、利用者に対するサービスの向上や地方公共団体の負担の軽減などで効果を生んだ。

「エコへの信念をいつまでも」

宇和島ステーション開発は、両施設の運営に合わせて「環境理念」を策定している。地球環境への貢献と人々の幸福に向けて、企業活動における基本理念と環境方針を設定。自然・歴史・文化が融合された21世紀の『新しい文化』の創造をめざすことにした。この理念に沿って企業活動をしていく上でも、石黒氏の存在は大きかった。

50周年の節目に当たり、「石黒先生と一緒に仕事をさせていただき、エコに対する知識・見識に感銘し、世界的な人脈があることに驚きました。環境やエコロジーがあまり話題にならない数十年も前から実践している先見の明は、本当に素晴らしいと思います。今後もエコに対する信念を変えずに、いつまでも頑張っていたきたい」とメッセージを送る。



HVSエコサービス社 クリス・バルファ氏と東矢英二社長